

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	O673000550		
法人名	社会福祉法人朝日ぶなの木会		
事業所名	グループホームかたくり荘		
所在地	山形県鶴岡市熊出字東村157-2		
自己評価作成日	平成27年 1月 10日	開設年月日	平成16年 2月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/O6/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 27 年 2 月 25 日	評価結果決定日	平成27年 3月 10日

(ユニット名 ----)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護師が常駐しない中早期に入居者の体調変化に気づき対応出来る様に日常生活での様子を把握し、Dr. 看護師、家族へ情報提供しやすい様取り組みを行なっている。また、水分摂取を拒む方へどうしたら摂取してもらえるか？隣接する看護師や栄養士から情報提供して頂き日々工夫を重ねて対応を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を踏まえて職員が事業所理念を作成し、理念に沿った事業所の自主点検シートに月毎の重点目標と評価項目を記載し、毎週、職員間で振り返り、理念の実践と共有に向け努力している。また、職員が利用者の様子を「月のまとめ」として毎月総括し、サービスの実施状況を確認しながら利用者一人ひとりの思いを大切にすることで、「利用者が自分の力を発揮しながら、その人らしい生活を送れるよう支援します」という理念の実現に事業所挙げて取り組んでいる。年間防災訓練計画を作成し、火災・自然災害等を想定した避難訓練、炊き出し・非常持ち出し等の実践的な訓練、研修会を毎月実施することで災害における利用者の安全確保に備えている。管理者と職員は普段から事業運営に係る課題意識を持ち、その解決に向けて積極的に取り組んでおり、地域における認知症の介護拠点としてさらなる活躍が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で意見を出し合い自分たちが意識できる理念を作成した。常に振り返り意識できるように事務所に掲示し職務にあたるようにしている。月例会で法人全体の理念を唱和し地域密着型サービスの意義を踏まえ日々生活支援にあたっている。	法人の理念を踏まえて職員が毎年事業所理念を作成している。事業所理念を事務所に掲示し、法人理念を月例会で唱和することで共有し振り返りながら、実践状況を確認している。管理者と職員は利用者ができることを大切にし、理念に掲げた「その人らしい生活」を実現するためのケアの提供に努めている。また、重点目標と評価項目を記載した自主点検カードを作成し、職員全員で振り返り、目標の達成状況を確認することで理念の実現に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者体育大会に参加したり、保育園児への訪問、受け入れ等し交流を図っている。また、高校生ボランティアの来荘にてレク活動や地区駅伝大会の応援を外に出て皆で応援し地域の一員として参加してきた。	老人クラブ主催の地区体育大会への参加、高校生ボランティアによるレク活動、近隣ボランティアによる御詠歌、保育園児とのふれあい等を通して地域との相互交流に積極的に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月近隣の方がボランティアで訪問しご利用者様と共に御詠歌を行なっている。職員の認知症への接し方、認知症症状など知ってもらえる機会となっている。運営推進会議や消防立ち合いの訓練時なども認知症症状など話を理解してもらえるよう配慮している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度 地域密着型特養と同時に開催しホーム内の現状及びヒヤリはつと報告を行っている。地域の方より合同防災訓練参加後に不足・不備な点をご指摘いただき改善につなげている。行政職員の参加により制度面の疑問などもすぐに対応していただいている。	運営推進会議は市職員、民生委員、区長、家族代表等が出席し、2ヶ月に1回開催されている。事業所から運営状況、ヒヤリハット・事故状況を報告したり、利用者の日々の生活について双方向の意見交換を行っている。防災訓練等委員から出された意見やアドバイスを運営改善に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進メンバーに参加していただき情報の共有にて困ったときはアドバイスなどしてもらっている。	市職員には運営推進会議で事業所の運営状況を報告し、介護相談員が毎月利用者と交流している。管理者は市主催のグループホーム部会に参加し、研修や情報交換を行っている。制度や利用者に関わること等、その都度相談しアドバイスを頂きながら協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関のドアにオルゴールをつけ無断外出予防を実施している。また、活動的な方は常に所在確認を行うようにしている。	身体拘束や虐待に関する課内研修会、法人研修会等を通して職員に周知している。職員は身体拘束の禁止行為や弊害について正しく理解している。帰宅願望の強い利用者に対しては、職員間で原因や対策について話し合い、所在確認を徹底したり、車椅子による通路の往復で気持ちを落ち着かせる等鍵をかけない工夫に取り組んでいる。ヒヤリハットの事例検討会を実施し、危険の予測やその対応を検討し不適切な対応をせず安全に暮らせるよう努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体会議や課内研修会にて勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修会で学ぶ機会を設け、日常生活自立支援事業を活用されている入居者様が福祉協議会と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や保険制度改正時、外部からの食事提供による食費変更時は内容を説明しその都度署名、捺印をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進メンバーの家族より意見を頂いたり、個々のケース会議などでも意見を求め支援に反映するように努めている。	家族アンケートで満足度調査を実施し、結果について会議で検討する意向である。普段から利用者の言葉に耳を傾けると共に、面会時は家族がゆっくり話が出来るよう配慮し、意見を表し易い環境づくりに努めている。介護相談員との交流は外部に意見を表すためのよい機会となっている。出された意見や要望は会議等で検討を加え、運営に反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や日々の業務の中でも意見を求め、出来る限り職員の意見をくみ取り反映させている。収集した意見等は部門会議で上司へ報告を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の取り組みにて各自向上心アップにつなげている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム会議や昼のミーティングなどで情報交換を行い随時対応に努めている。	人事考課制度に従い、職員が目標を設定し、代表者・管理者が評価・指導することで職員を育てる取り組みが実践されている。前回目標達成計画に従って年間研修計画を作成し、内部研修は事業所の実情に応じた研修が行われ、外部研修は管理者が職員の職責と力量を勘案しながら派遣している。派遣された職員は伝達研修を行い、全職員のスキルアップに繋げている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修ではグループホーム協議会での交換実習や研修会に参加し学んだことを伝達研修や現場に活かしている。	グループホーム連絡協議会主催の研修会、交換実習の派遣・受入、運動会等を通して情報交換やネットワークづくりに努めている。管理者は市主催のグループホーム部会に参加し、同業者との連携強化にも取り組んでいる。	

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族より情報提供をして頂き、情報を元に会話を大切にしている。何気ない会話から本人が希望など聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時、契約する時、入居直後家族から相談などあったときは話を伺い対応に努めている。毎月日ごろの様子など記載したまとめの文章で報告している。急な体調変化時は電話連絡を行い信頼関係を保てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居時に隣接する特養入所申し込みを勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出勤・退勤時には入居者一人ひとりに挨拶を大切にしている。1対1で会話をする時間を持ち一緒にいる時間を大事にしている。家事仕事など一緒に言い同じ時間を共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度状況報告している。面会時はゆっくり話が出るよう配慮するようにしている。毎月生活の様子を文章にて発送し伝え身近に感じていただけるようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃より家族への面会を呼びかけを行い、ホーム内部での行事には呼びかけを行うと共にできる限る自由に外出・外泊ができるように支援している。親戚や近所の方も面会も喜んで受け入れしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースとして談話室 食堂 居間がある。気の合うもの同士思いのままに過ごしていただいている。トラブルが起きそうな時は席を変えるなど配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族が困らないようケアマネジャーと連携を図りながら支援を行っている。ホーム退居後隣接する施設へ入所された場合は様子を伺いに行ったり声かけしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や家族からの情報を基に問いかけし希望を伺っている。希望をかなえられるよう家族からの協力を得て外出・外泊・ドライブすることができた。天候をみてホームから出て自然を満喫できる機会を増やしていけるともっとよかった。	日頃からコミュニケーションを大切にし、利用者と1対1で会話する時間を持ち、思いや意向を把握している。意思表示が困難な場合は、家族からの情報や利用者の表情・仕草から思いや意向を汲み取るよう努めている。その情報は職員間で共有し、家族の協力を得ながら、利用者の希望が実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時や家族を含めた担当会議にて情報提供していただき生活歴、生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月グループホーム会議にて気になる入居者の状況・情報交換を行うようにしている。各自介護計画書に大まかな過ごし方を記載し把握に努めている。日々のかかわりの中で家事や作業をお手伝いして頂きながらその方に合ったことを工夫しながら1日の過ごし方を考えて取り組みしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成者が担当者から情報収集を行い、計画作成・アセスメント・モニタリングを行っている。家族を含めた担当会議を行い家族と情報共有している。	利用者や家族の意向を反映した、具体的にわかりやすい介護計画書となっている。担当者が利用者の様子を「月のまとめ」として毎月総括し、介護計画の実施状況を確認している。これを基に、3ヶ月に1回モニタリングを行い、計画の見直しを行っている。見直しの際は、グループホーム会議やサービス担当会議で出された職員や家族の意見・アイデアを取り入れながら、利用者一人ひとりの生活の視点に立った介護計画の作成に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人のケース記録を記入し、バイタル測定はパソコン入力し体調変化が一目でわかるような取り組みを行っている。定期的にケアチェックを実施。ホーム会議にて情報交換交換を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体調不良の方が多く外出などが控えめになったが、保育園児の訪問を中心とし入居者全員が楽しめる事ができた。山菜の下処理などしながらそれぞれが季節感を味わった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期受診にて適切な医療が受けられるよう配慮している。(協力医による定期回診)外部受診は家族の協力を頂きながら対応している。体調変化時はその都度家族へ連絡し早期対応を行い受診治療に努めている。	利用者・家族が希望するかかりつけ医を継続しているが、協力医による定期回診を希望する利用者が大半を占めている。外部受診の際は家族が同行するが、状況により職員が対応する場合もある。受診時には医師にバイタル等の情報提供を行い、受診結果は健康記録に記載し、その都度家族に報告すると共に「月のまとめ」で家族と情報共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックから異常を認めた場合は隣接する看護師へ報告・相談し早目の指示対応を受ける事ができる。ミーティングにも参加して頂き情報共有に繋げて状況に応じた支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族を通して情報収集を行なっている。状況に合わせて話し合いを持ち対応している。退院時は協力医へ報告を行い以後の対応がスムーズに行えるように情報提供を行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の生活において変化が見られた場合は家族に随時報告を行ない、担当者会議などで家族の意向を確認している。必要となってから看取り指針の説明・署名捺印を行う。協力医へ報告しすぐに対応して頂ける様取り組んでいる。	看取り研修を実施しながらケア技術の向上に向け努力している。「看取り指針」を作成し、早い段階から「できること、できないこと」を家族に説明し、重度化した場合は関係者が情報を共有しながら対応している。利用者の状況に応じサービス担当者会議等を開催し、家族の意向を確認し、協力医と連携しながら支援できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度はグループホーム内部にて心肺蘇生法研修会を実施し全員が身に付ける事ができた。急変時はバイタル測定を行い看護師に相談し、指示を受けながら対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災訓練を計画し実施している。水害は避難指定場所まで実際に移動してみたり、また消防立ち合いのもと夜間想定避難訓練を実施。土鍋での炊き出しもした。	前回目標達成計画に従って年間防災訓練計画を作成し、消防署の協力を得ながら、火災・自然災害等を想定した避難訓練、炊き出し・非常持ち出し等の実践的な訓練、AEDや心肺蘇生等の研修会を毎月実施することで災害における利用者の安全確保に備えている。また、法人による地域住民等の参加を得た合同訓練や食料の備蓄が行われている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月 3～4項目取り組み事項を決めて対応の仕方や態度などどうかチェックを行い、中間実施状況を述べ今後の対応など検討し声掛けなど留意している。	事業所の自主点検シートに重点目標と評価項目を記載し、毎週職員全員で振り返り、目標の達成状況を評価することで利用者とかかわり方等不適切な対応の無いよう努力している。親しさのあまり、馴れ合いにならないよう、職員間で注意し合いながら、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各担当職員が日常会話からご本人の想いをくみ取り外出したり、家族の協力を得ながら待ち合わせにて外食など実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は無理せず、起床を拒む時は居室で食事を摂ったり時間をずらして入居者のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が用意したアイテムでその人らしいおしゃれを支援している。自分でお化粧される方もあり自分らしく過ごして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士のアドバイスを得ながら職員が献立をたてている。季節の旬の食材を生かしたメニューとし話題提供も行っている。胡麻すり、野菜の下ごしらえ、食器拭き等出来るところはお願いして同じ時間を過ごすしている。	利用者の希望を聞き、管理栄養士のアドバイスを得ながら職員が献立を作成している。新鮮な季節の食材を使用して、3食とも事業所のキッチンで調理している。利用者の身体状況によりソフト食の提供も行われている。利用者は職員と一緒に下ごしらえや後片付け等に参加し、家庭的な雰囲気ですべてを楽しんでいる。行事食、外食、出前等で食事のアクセントにも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回体重測定実施し体重管理を行なっている。水分摂取は重要視され水分不足者はチェックし記録している。水分が取れるか検討会を行い、お茶寒天を提供し水分確保に努めている。咀嚼・嚥下困難者に対しては安全を確保するため隣接する施設より食事を提供して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを声掛け実施している。年に1度歯科健診を実施し口腔内の状態を把握している。必要に応じて治療など行うようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	大まかな排泄パターンを基本とし声掛けに留意しながらトイレ誘導を行なっている。身体状況に合わせてチェック表を活用しプライバシーにも配慮している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握したり、表情や仕草から読み取り、適時声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。利用者の羞恥心やプライバシーにも配慮しながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	荘内歩行を行ったり、水分強化(チェック)を実施している。毎日排便確認を行いヨーグルト・牛乳・寒天などの食物摂取により排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を拒む時は無理せず体調、タイミングを図りながら個々に対応している。自ら入浴希望する方は見られず、週2～3回に入浴支援行なっている。仲間と入浴すると歌等自然とロずさみ和やかに入浴することができる。	利用者の希望や体調に合わせ、週2～3回の入浴を確保し、清潔の保持に努めている。入浴を嫌がる利用者に対しては、介助職員を変更したり、声掛けを工夫しながら対応している。個浴と併設の同法人事業所の機械浴を利用者の身体状況に合わせて使い分け、安全・安心な入浴にも取り組んでいる。また、敷地内にある温泉を楽しむことができるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使用していた寝具類を使用している。ソファを使用したり、事務所にカーペットを用いて布団を敷くなどして個々に合わせた休息を取っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の内服サンプルを準備し薬セット時に参照している。一次的な追加薬も随時日付など記入して忘れない様に留意している。個人の健康ファイルを作成し現病や内服薬の把握に努め、記録等行い体調変化時対応出来る様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き・洗濯物干し・モップかけなど日常生活から出来る事を手伝っていただいている。その人に合わせた創作活動、外出等を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自分から希望を訴える方は少ない。買い物に同行して頂いたり、帰宅願望の強い方は家族が心配であり妻の入所先に面会に行くなどそれぞれの事情に合わせて対応を行なっている。家族の協力で近くのヤマザワで待ち合わせし外食・外出等楽しい時間を共有することができた。	季節のドライブ、行事での外出、散歩、買物等で戸外に出かける機会を確保している。天気の良い日には敷地に植えられた桜を眺めたり、芝生でお茶や日光浴を楽しんでいる。また家族の協力を得て、ドライブ、外出、外食等の支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理で出来る部分は自己管理に任せている。自己管理時には紛失恐れがある事を家族に説明を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	紛らわしいもの、危険なものは置かない様にしている。入居者が作成した塗り絵、季節に応じた飾り付けを心掛け室内でも楽しめるような工夫をしている。感染症予防に加湿器、空気洗浄など使用し空調を整える様にしている。	開設から11年経過しているが、共有空間は掃除が行き届き、適切な温度・湿度管理が行われ、明るく清潔に管理されている。乾燥期は加湿器や除菌装置が設置され、感染症予防にも配慮されている。行事の写真や季節の手作り創作品等がさり気なく展示され、リビングには食卓、ソファ、和室が配置され、気の合った利用者同士が思い思いの場所で居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室・自室・居間を自由に動けるスペースがある。自分の気分で好きな所に移動して過ごして頂いている。事務所にカーペットを敷き足を伸ばせるスペースを作り寛げるようにした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの持参を呼びかけるが近年持参する方は少なくなった。写真を貼ったり自分の背丈に合わせて椅子を物置にしたり個人が使いやすいように自由に使ってもらっている。	馴染みの調度品や家族の写真等を持ち込み、好みの配置や飾り付けを行うことで、自宅とのギャップを感じることなく、安心して居心地よく過ごせるよう工夫されている。入口には避難確認用ランプを設置し、有事における安全確保にも取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	貼りだしは理解困難者には頼りなく、殆どの方が誘導し対応している。		